

日時：2025年11月4日（火曜日）午前

場所：JICA 東京 別館セミナールーム

研修内容：PADECO による JICA との取り組みについての講演

概要：

本セッションでは、日本式教育の特徴である”TOKKATU”「特活」「特別活動」をエジプトで導入した実践例が、紹介された。特活は学級活動や委員会活動を通じて、子どもに主体性や責任感を育む教育手法であり、人格形成や課題解決能力の育成を目指すエジプトでは広く実践されている。プロジェクトの持続性を育むために、教師向けのガイドラインや、33000人規模の教員研修を作成していることが述べられた。

また、バングラデッシュにおける20年間の理数科教育改善プロジェクトの事例が紹介された。暗記中心の学習から、授業研究や教材改善を通してアクティブな学びを促進し、カリキュラムや教員教育システムの改革を実現した。政策と現場をつなぐ「翻訳者」としての役割の重要性を PADECO さんは強調した。

結論として、質の高い学びには強固な教育システムと活発な教育実践の両立が不可欠であるとされた。参加者からは、企業内での人事や、コンサルするまでの過程についての質問があり、プロジェクトは社単独ではなく様々な企業と協働して行っていることが述べられた。また、コンサルティングについては、簡単なものではなく、JICA の支援方針に沿って提案し、採択することで関与が可能になることが述べられた。

セッション終了後も、個別に PADECO の社員の方と研修員が交流する姿が見られ、非常に有意義な時間となった。



Q&A session

日時：2025年11月4日（火）午後

場所：JICA 東京 別館 セミナールーム

研修内容：吉田先生によるワークショップ①

概要：

午後からは、吉田先生の講義とグループディスカッションが行われた。グループディスカッションでは、「継続的改善」と「改革をきっかけとした変化」について各国の事例をグループ内で共有し、目的、実施方法、成果、持続可能性を議論した。

まず、教育の質の向上を目的とした取り組みとして、新任教師の数を減らし最低限の教育を制度化する事例が紹介された。背景には、生徒の学習性が低く、トピックやシステムを十分に理解できない問題があった。現在では、教師が十分な訓練を受け、制度化された教育システムに基づいて業務を行うように改善されている。

次に、イエメンでは、女子教育支援を目的とした包括的な教育政策が2014年異開始された。地方の教育機会格差を是正するべく、国際ドナーの支援と政府の雇用コミットメントが組み合わされ、10日間にわたる面接を経て、女性教師を配置する仕組みが導入された。持続可能性は政府の雇用保障に依存するとのことだ。

そのほかにも、キルギスにおいて、教科書の段階的に難易度が上がるように改善したことや、バングラデッシュにおけるコロナ渦の、YouTube等を活用した授業方法が紹介された。

上記に紹介した事例は、一部の国のみであるが、どの国も、吉田先生からも指摘があったように、その教育政策には、誰が関わるか、改革の目的や方法、指標は何か、誰が開始、設計したのか、持続可能性と結果はどうなのか、という視点に立ち議論し発言していた。

